

1917年10月1日の台風による暴風雨について

当時の水戸測候所(現水戸地方气象台)の1917年(大正6年)10月1日の暴風雨報告によると、
「9月24日南洋パラウ群島の北方洋上に発生せる台風は北西方に徐行し、26日ルソン島東方海上
に到れり、しかして同日朝、北東に転向して29日午前沖繩南東方の洋上より(この時、当測候所にお
いて警報を発せり)30日午前土佐沖を經、同日夕刻潮岬の南方30里(約120km)の位置に到達せ
り。じ後なお北東に進行して同夜半頃静岡付近より上陸し、1日午前3時半頃埼玉県大宮町(市)付
近を通過して同6時福島市へ進行せしものごとし。」とある。

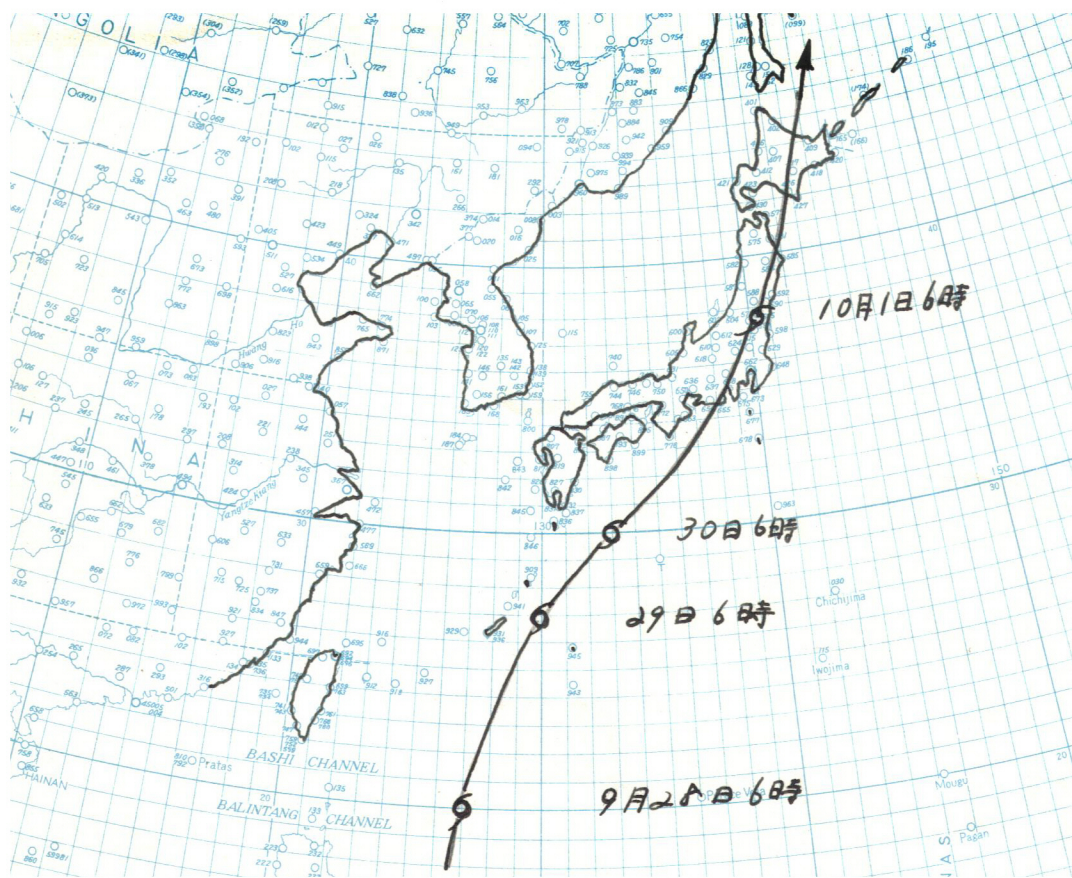
また、水戸地方气象台が1977年2月にまとめた茨城県気象災害誌によると、この台風による茨城
県内の被害について、「静岡付近に上陸し、埼玉県を經て、1日午前4時半ころにホン県西部を通過
して福島市付近へ抜けた台風は、通過の速度が速かったため、雨量は比較的少なく、県内では
100mm内外の所が多く栃木・群馬方面で200mm位の所が多かったが、河川洪水による被害は殆
どなかった。台風の勢力は極めて優勢で、中心示度947mb以下と推定され、風が非常に強く水戸で
4時20分に南南東26.7m/sを觀測した。この強風のため稀にみる甚大な風害を受けた。」とあり、強
い風による被害が大きかったことが推定される。

以下に、日立市天気相談所が1972年06月01日に発行した「防災気象」の中より、天気相談所
開設以前に発生している大きな災害についてとしてまとめられているものを抜粋して示す。

防災気象（1972年6月1日、日立市天気相談所発行）から

(1) 大正6年10月1日台風による暴風（1917年）

大正6年10月、昭和16年7月、昭和24年9月 各台風経路図



台風経路図でもわかるように、台風通過域の北東象限では風速も10 m/s前後であつたが、通過直後から南東象限に入った地域ではSEからSの暴風圏に入り、特に海岸地方では25～30 m/s、所によつて35 m/s以上の暴風となつたため、家屋倒壊、樹木（杉など）の倒木が発生した。一般に20 m/sの強風にあえば、樹木の折損、倒伏は多くなり、果実などは未熟の

まま地上に落ち、収穫が皆無となつたであろう。そのほか、小船舶（漁船）などの衝突、流失、漂流、沈没、浸水などの破損が考えられる。内務省の調査では罹災戸数6万175戸、船舶の流失、沈没8,182隻、死傷者及び行方不明者3,346名となつている。

暴風雨による被害

地名	死傷、行方不明	全潰、半潰	この被害は台風が本県の西部を通過したため全県下にわたり、被害戸数は全国の39%に達している。(1,000戸以下の郡名は省略した。)いかに強い風であつたかが想像される。船舶の被害数については、資料がないので正確な数はわからないが、台風経路からみて、全国の1～2割程度ではないかと考えられる。
茨城県	511名	23,651戸	
多賀郡	64	1,861	
久慈郡	22	1,723	
那珂郡	39	2,064	
東茨城郡	53	3,321	
鹿島郡	51	2,719	
行方郡	34	1,827	
稲敷郡	42	3,135	
新治郡	44	2,356	

当時の神峰山の記録から9月30日は終日北東の風10m/s前後であつたが、10月1日の01時から台風の接近によつて風速が増すとともに風向が東から南に急変(当地方でもつとも恐れられている辰巳の風)した。20m/s以上の風が夜半から(02時～08時)夜明けにかけて6時間つづいた。(1) 当時はラジオもテレビもなかつた。(2) 台風が上陸しても衰えなかつたこと。(3) 台風の色度が速かつたこと。(4) 台風の通過時刻が夜半であつたこと。(5) 台風経路が本県西部で近距離であつた。などの原因があげられる。

幸い当所に当時(日立鉱業所気象観測所記録)の大正6年10月1日の暴風録が保存されているので、その記録から当時の状況を再現してみる。

当時東洋一とうたわれた大煙突(高さ156m、海拔325m)が完成した2年後の秋に、台風が暴風雨を伴つて当地方に襲来した。

記録「上大門観測所建物は10月1日午前5時05分北西方向(南東の風)に約1間半(4～5m)程そのまま移動し、谷へ吹き飛ばされ原野上に粉碎せられ原形を存せず立木、建物、敷地平面にはただ土台2本、電柱1本、避雷針1本残存せるのみなり。幸いにして観測所建家の移動し始めたると同時に、所員、人夫共に避難穴入口に入ると同時に、建家倒壊したるをもつて損傷を被らざりき……」この建物は当時の金額で390円であつた。

瑞龍試験地観測所(現常陸太田市)は暴風のため風力計、風信器を破損をきたして、風の観測は不能におちいつたが、気圧の変化については建物倒壊寸前にもかかわらず観測続行した記録が残つているので次表に示す。最低気圧は04時40分72.14ミリ(961.8mb)であつた。この台風は転向点(N24、E128)より48時間にしてオホーツク海に入り、その行程、大略680里(2,720Km)1時間の平均速度は13里強(56.7Km)であつた。

時 間	気 圧
30日21時	997.8 mb
22	997.7
23	995.8
24	993.1
1日01時	990.6
02	985.8
03	978.5
04	968.7
06	975.8

最大風速表

風速 \ 地名	神 峰 山	滑 川	水 戸
当時の風速	SE 63.1 m/s	SSW 54.1	SSE 38.1
現行換算	SE 44.2	SSW 37.9	SSE 26.7

気 圧 表

気圧 \ 地名	沼 津	東 京	宇 都 宮
耗	714.3	714.6	718.2
mb	952.3	952.7	957.6

大正6年10月1日9台风経路

と最大风速 (风速は旧风速 $\times 0.7$) (962.2) mb 6時
(11.2) m/s 9時

